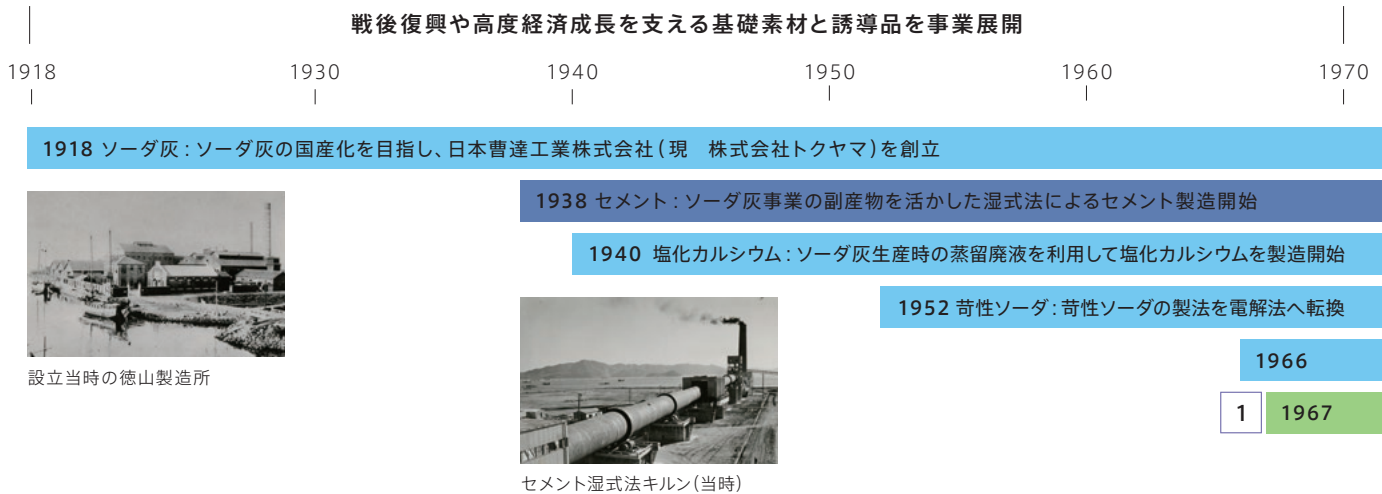


トクヤマの価値創造

100年超の歴史で培った強み

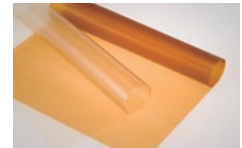


成長事業につながる技術

トクヤマには1918年の創業以来、無機化学を深耕し、1970年代からは有機および高分子化学を中心に、ファイン・スペシャリティ化を推進するなど、技術の蓄積と新製品の創出に努めてきました。一世紀余の歩みの中で、成長の礎となる技術を確立。これらを進化させながら、新しい時代に求められる価値の創造に邁進します。

1 イオン交換膜による分離技術

1960年代に、日本で初めて当社が製品化。現在では、目的物のみ通す選択透過性や、耐薬品性を備えた膜を使うことで、用途に応じた分離技術を有しています。海水から食塩の製造や特定の有価物の回収、ワイン・醤油など食品の精製・製造、中性塩廃液から酸・アルカリの製造など広範な産業で使用されています。



イオン交換膜

2 分子設計・有機合成技術

当社はフォトクロミック材料の色調や発退色など、目的に応じた化学構造を設計・制御する分子設計の技術力が高く、また、その設計通りに製品を作る高度な有機合成技術を有しており、プラスチックレンズ関連材料分野で多くの納入実績を持っています。今後、2つの技術をより広範な領域へと展開していきます。



プラスチックレンズ関連材料

3 高純度・高感度分析技術

シリコンウェハの原料に使用される半導体用多結晶シリコンは、世界最高レベルの純度を誇ります。また、電子部品の洗浄に用いられるイソプロピルアルコールという薬液は、独自の製法により不純物の少なさが特徴です。極微量の不純物を見逃さない高純度・高感度分析技術が、これらの開発・製造を支えています。



電子工業用高純度薬品

4 直接窒化・還元窒化技術

トクヤマの窒化アルミニウムとその応用製品は、世界トップシェアを誇ります。還元窒化法という独自製法により、優れた焼結性(焼き固まりやすさ)を有しています。競合製品を大きく上回る熱伝導率、熱膨張率などの特性が評価され、半導体の放熱基板や半導体製造装置の材料に採用されています。



窒化アルミニウム

5 廃棄物処理技術

セメント製造における廃棄物の有効利用・再資源化は、事業開始時から取り組んでおり、社外から廃プラスチックなど大量の廃棄物を受け入れています。キルン(窯)の燃焼温度が1,000~1,800℃と非常に高温のため、可燃性の成分は完全燃焼し、不燃成分はセメントの原料代替に利用。残渣が出ない処理技術です。



資源リサイクル

情報化社会を支える電子材料などの先端領域や医療関連材料へ進出

環境意識の高まりからリサイクル分野に進出

1980

1990

2000

2010

2020

して製造開始

塩ビ樹脂：電解で生成する塩素を原料とする塩ビ樹脂の製造子会社設立

イオン交換膜：海水濃縮による製塩に使用するイオン交換膜の製造開始（日本で初めてイオン交換膜を製品化）

1972 イソプロピルアルコール（IPA）：当社独自開発の直接水和法によるイソプロピルアルコールの製造開始

1978 歯科器材：高分子技術と粉体制御技術を応用し、歯科器材分野へ進出

1981 樹脂サッシ：塩ビを原料とする樹脂サッシの製造子会社を設立

2 1982 プラスチックレンズ関連材料：炭酸ソーダ法でアリルジグリコールカーボネートを合成し、プラスチックレンズ分野へ進出

1982 医薬品原薬・中間体：有機合成技術を活用し、医薬品原薬・中間体事業に進出

3 1983 電子工業用高純度薬品：イソプロピルアルコールの高純度品であるIPA-SEの製造を開始

1983 医療診断システム：診断システム事業への進出のきっかけとなる「ポリアミン・テスト・エンザイム」の販売を開始

3 1984 半導体用多結晶シリコン：副産物である塩素、水素を活用し、高純度多結晶シリコンの製造を開始

4 1985 窒化アルミニウム：独自の還元窒化法による窒化アルミニウム粉末の製造を開始

5 2000 資源リサイクル：徳山製造所に資源環境事業グループを新設

液化水素：岩谷産業との合弁会社「山口リキッドハイドロジェン」にて、液化水素の製造を開始

2013

廃石膏ボードリサイクル：廃石膏ボードリサイクルの事業合弁会社「トクヤマ・チヨダジプサム」が開業

2013



多結晶シリコンプラント

製造技術

創業となったソーダ工業、副生物を利用したセメント製造、独自製法の窒化アルミニウムなど、トクヤマには固有の製造技術をスケールアップすることで、時代のニーズを捉えた新事業に進出してきた歴史があります。高純度窒化ケイ素粉末は、省エネルギーで環境負荷が少ない製造プロセスを開発し工業化に成功。2021年4月に開設した先進技術事業化センターではこの粉末を用い、省エネルギーで競争力のあるセラミックスの製造プロセスも開発し、現在量産プラントを建設中です。



徳山製造所



先進技術事業化センター

顧客ネットワーク

化成品・セメント事業においては、長年事業を続けてきた歴史の中で培われた国内顧客との間に築いたネットワークを活かし、キャッシュカウとして貢献します。

一方、成長事業は、豊富な実績を基に国内外の顧客企業から新たな課題や製品用途に関する相談を受けるケースが増加しています。たとえば半導体の微細化に伴い発生する製造工程の諸課題に対し、独自技術による解決策を提案。こうした価値提供力が、事業拡大の原動力となっています。



Tokuyama Electronic Chemicals
(シンガポール)



Tokuyama Asia Pacific
(シンガポール)

目指すビジネスモデル

現在のトクヤマは、エネルギー多消費型事業からの転換という大きな節目を迎えています。このような現状認識に立ち、今後は私たちの強みを活かせる「電子」「健康」「環境」という3分野を、新たな成長市場と位置づけています。独自技術とマーケティングを組み合わせ、この3市場に向けて他社にない価値を提供する、ソリューション型のビジネスを展開していきます。

この新たな事業モデルを通じて、自社が排出するCO₂を削減しながら、SDGsにつながるマテリアリティの達成を目指します。そして、私たちのありたい姿として定義した「独自の強みを磨き、活かし、新領域に挑み続ける企業」を体現していきます。

投入する資源



注力領域



目指す姿

主なソリューション

- ・最先端の電子機器の性能維持
や省エネルギー化
- ・半導体の微細化
- ・半導体の高性能化



主なソリューション

- ・メガネレンズの高性能化による
生活の質的向上
- ・歯科医療の発展
- ・迅速かつ的確な診断・治療を可
能にする臨床検査支援



主なソリューション

- ・廃棄物再資源化による循環型
社会の構築
- ・廃棄物の大量処理への貢献
- ・廃液の脱塩等による水環境保護



存在意義

化学を礎に、環境と調和した
幸せな未来を顧客と共に創造する

ありたい姿

マーケティングと 研究開発から始める 価値創造型企業

- ・最先端の情報・技術の追求
- ・外部ネットワークの拡大
- ・時代の進化への貢献

世界中の 地域・社会の 人々との繋がりを 大切にする企業

- ・国際展開の加速
- ・地域経済・社会の
発展に貢献



独自の強みを 磨き、活かし、 新領域に 挑み続ける企業

- ・技術の差別化
- ・製造プロセスの革新
- ・顧客ネットワークの
拡充

社員と家族が健康で 自分の仕事と会社に 誇りを持てる企業

- ・心と体の健康
- ・個性の尊重
- ・風通しの良い社風